

**【表紙】**

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年 1月19日
【計算期間】	第19期中（自 平成29年 4月21日 至 平成29年10月20日）
【ファンド名】	三菱UFJ 日本成長株オープン
【発行者名】	三菱UFJ国際投信株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 松田 通
【本店の所在の場所】	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
【事務連絡者氏名】	伊藤 晃
【連絡場所】	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
【電話番号】	03-6250-4740
【縦覧に供する場所】	該当ありません

（注）この半期報告書は、金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第7条第4項の規定により、平成29年7月19日付をもって提出した有価証券届出書の訂正届出書とみなされます。

## 1【ファンドの運用状況】

## (1)【投資状況】

## 【投資状況】

平成29年10月31日現在

(単位：円)

資産の種類	国/地域名	時価合計	投資比率(%)
株式	日本	2,430,993,390	98.83
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		28,810,367	1.17
純資産総額		2,459,803,757	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

## 【投資資産】

## (a)【投資有価証券の主要銘柄】

## a 評価額上位30銘柄

平成29年10月31日現在

国/ 地域	銘柄	種類	業種	株式数	上段：帳簿価額 下段：評価額		利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
					単価(円)	金額(円)		
日本	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	14,300	6,597.81 6,990.00	94,348,745 99,957,000		4.06
日本	朝日インテック	株式	精密機器	13,000	4,800.00 6,560.00	62,400,000 85,280,000		3.47
日本	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	銀行業	107,000	666.60 762.50	71,326,200 81,587,500		3.32
日本	東海カーボン	株式	ガラス・土石製品	69,000	448.18 1,124.00	30,924,420 77,556,000		3.15
日本	ソフトバンクグループ	株式	情報・通信業	7,600	8,105.05 9,947.00	61,598,384 75,597,200		3.07
日本	小松製作所	株式	機械	20,000	3,774.06 3,697.00	75,481,217 73,940,000		3.01
日本	スズキ	株式	輸送用機器	11,900	4,462.00 6,175.00	53,097,800 73,482,500		2.99
日本	任天堂	株式	その他製品	1,600	28,231.49 43,800.00	45,170,391 70,080,000		2.85
日本	日本電産	株式	電気機器	4,200	11,417.53 14,995.00	47,953,643 62,979,000		2.56
日本	東京エレクトロン	株式	電気機器	3,000	12,425.42 19,755.00	37,276,260 59,265,000		2.41
日本	昭和電工	株式	化学	14,000	2,027.34 3,775.00	28,382,760 52,850,000		2.15
日本	ファナック	株式	電気機器	2,000	25,406.51 26,370.00	50,813,039 52,740,000		2.14
日本	エムスリー	株式	サービス業	15,500	2,847.28 3,375.00	44,132,841 52,312,500		2.13
日本	東京応化工業	株式	化学	12,300	3,385.00 4,125.00	41,635,500 50,737,500		2.06
日本	キーエンス	株式	電気機器	800	47,531.67 62,830.00	38,025,336 50,264,000		2.04
日本	日立製作所	株式	電気機器	56,000	834.90 897.00	46,754,816 50,232,000		2.04
日本	第一生命ホールディングス	株式	保険業	23,000	1,889.55 2,142.50	43,459,873 49,277,500		2.00
日本	東ソー	株式	化学	18,500	2,444.13 2,438.00	45,216,555 45,103,000		1.83
日本	ソニーフィナンシャルホールディングス	株式	保険業	23,700	1,882.69 1,868.00	44,619,963 44,271,600		1.80
日本	住友化学	株式	化学	53,000	607.58 794.00	32,201,817 42,082,000		1.71
日本	ファーストリテイリング	株式	小売業	1,100	35,178.39 37,610.00	38,696,231 41,371,000		1.68
日本	ディスコ	株式	機械	1,500	16,470.00 26,130.00	24,705,000 39,195,000		1.59
日本	船井総研ホールディングス	株式	サービス業	9,300	2,679.01 4,155.00	24,914,793 38,641,500		1.57
日本	三井金属鉱業	株式	非鉄金属	6,500	3,713.90 5,870.00	24,140,350 38,155,000		1.55
日本	UACJ	株式	非鉄金属	11,400	2,900.56 3,320.00	33,066,483 37,848,000		1.54
日本	ペプチドリーム	株式	医薬品	10,500	3,385.00 3,590.00	35,542,500 37,695,000		1.53
日本	ローム	株式	電気機器	3,600	7,968.21 10,460.00	28,685,556 37,656,000		1.53

日本	D.A.コンソーシアムホールディングス	株式	サービス業	20,000	1,449.99 1,877.00	28,999,800 37,540,000		1.53
日本	オムロン	株式	電気機器	5,900	5,263.27 6,320.00	31,053,293 37,288,000		1.52
日本	SUMCO	株式	金属製品	15,000	1,841.01 2,467.00	27,615,150 37,005,000		1.50

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

#### b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

平成29年10月31日現在

種類 / 業種別		投資比率 (%)
株式	建設業	2.00
	食料品	1.17
	化学	9.92
	医薬品	2.95
	ガラス・土石製品	3.15
	非鉄金属	3.09
	金属製品	2.01
	機械	7.86
	電気機器	21.09
	輸送用機器	9.74
	精密機器	3.47
	その他製品	4.34
	情報・通信業	4.63
	卸売業	1.02
	小売業	4.60
	銀行業	3.87
	保険業	4.86
サービス業	9.08	
合計	98.83	

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

#### (b) 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

#### (c) 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

#### (2) 【運用実績】

##### 【純資産の推移】

下記計算期間末日および平成29年10月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

(単位：円)

	純資産総額	基準価額 (1万口当たりの純資産価額)
第9計算期間末日 (平成20年 4月21日)	5,404,775,461 (分配付) 5,404,775,461 (分配落)	9,322 (分配付) 9,322 (分配落)
第10計算期間末日 (平成21年 4月20日)	2,984,421,089 (分配付) 2,984,421,089 (分配落)	5,100 (分配付) 5,100 (分配落)
第11計算期間末日 (平成22年 4月20日)	3,429,839,853 (分配付) 3,429,839,853 (分配落)	6,391 (分配付) 6,391 (分配落)
第12計算期間末日 (平成23年 4月20日)	2,948,897,833 (分配付) 2,948,897,833 (分配落)	6,130 (分配付) 6,130 (分配落)
第13計算期間末日 (平成24年 4月20日)	2,711,778,680 (分配付) 2,711,778,680 (分配落)	6,254 (分配付) 6,254 (分配落)
第14計算期間末日 (平成25年 4月22日)	3,351,741,848 (分配付) 3,351,741,848 (分配落)	9,853 (分配付) 9,853 (分配落)
第15計算期間末日 (平成26年 4月21日)	3,381,815,366 (分配付) 3,333,709,591 (分配落)	10,545 (分配付) 10,395 (分配落)
第16計算期間末日 (平成27年 4月20日)	3,124,273,922 (分配付) 2,793,752,521 (分配落)	14,179 (分配付) 12,679 (分配落)
第17計算期間末日 (平成28年 4月20日)	2,963,083,138 (分配付) 2,963,083,138 (分配落)	12,694 (分配付) 12,694 (分配落)

第18計算期間末日 (平成29年4月20日)	2,309,750,289 (分配付) 2,257,761,750 (分配落)	13,328 (分配付) 13,028 (分配落)
平成28年10月末日	2,767,725,345	12,910
11月末日	2,722,511,807	13,231
12月末日	2,587,311,275	13,600
平成29年1月末日	2,551,217,303	13,746
2月末日	2,414,709,523	13,814
3月末日	2,406,625,345	13,951
4月末日	2,390,307,995	13,672
5月末日	2,416,184,053	14,346
6月末日	2,299,802,625	14,444
7月末日	2,327,622,216	14,812
8月末日	2,384,198,048	15,215
9月末日	2,424,043,994	16,178
10月末日	2,459,803,757	17,149

## 【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第9計算期間	0円
第10計算期間	0円
第11計算期間	0円
第12計算期間	0円
第13計算期間	0円
第14計算期間	0円
第15計算期間	150円
第16計算期間	1,500円
第17計算期間	0円
第18計算期間	300円

## 【収益率の推移】

	収益率(%)
第9計算期間	16.30
第10計算期間	45.29
第11計算期間	25.31
第12計算期間	4.08
第13計算期間	2.02
第14計算期間	57.54
第15計算期間	7.02
第16計算期間	36.40
第17計算期間	0.11
第18計算期間	4.99
第18計算期間末日から 平成29年10月末日までの期間	31.63

(注)「収益率」とは、計算期間末の基準価額(分配付の額)から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落の額)を控除した額を当該基準価額(分配落の額)で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。ただし、第18計算期間末日から平成29年10月末日までの期間については平成29年10月末日の基準価額から当該基準価額(分配落の額)を控除した額を当該基準価額(分配落の額)で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

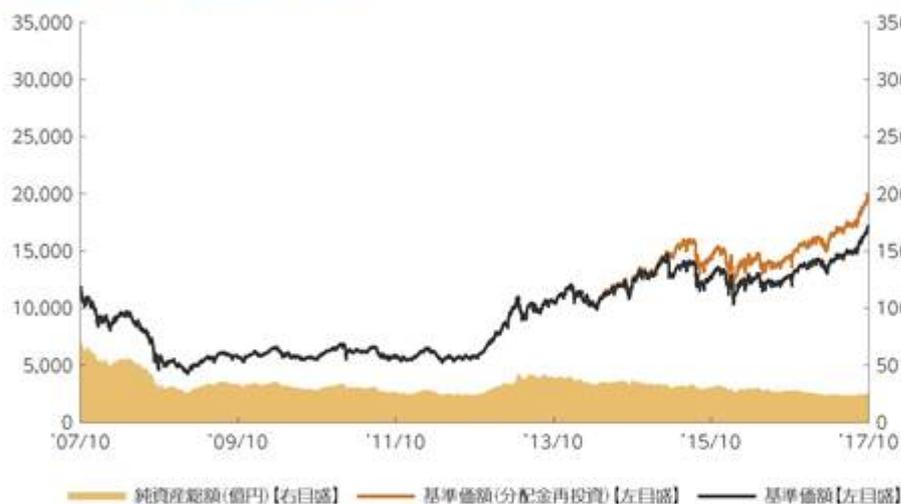
[ 参考情報 ]



## 運用実績

2017年10月31日現在

### ■基準価額・純資産の推移 2007年10月31日～2017年10月31日



- ・基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

### ■基準価額・純資産

基準価額	17,149円
純資産総額	24.5億円

### ■分配の推移

2017年 4月	300円
2016年 4月	0円
2015年 4月	1,500円
2014年 4月	150円
2013年 4月	0円
2012年 4月	0円
設定来累計	7,230円

・分配金は1万口当たり、税引前

### ■主要な資産の状況

組入上位業種	比率	組入上位銘柄	業種	比率
1 電気機器	21.1%	1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.1%
2 化学	9.9%	2 朝日インテック	精密機器	3.5%
3 輸送用機器	9.7%	3 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.3%
4 サービス業	9.1%	4 東海カーボン	ガラス・土石製品	3.2%
5 機械	7.9%	5 ソフトバンクグループ	情報・通信業	3.1%
6 保険業	4.9%	6 小松製作所	機械	3.0%
7 情報・通信業	4.6%	7 スズキ	輸送用機器	3.0%
8 小売業	4.6%	8 任天堂	その他製品	2.8%
9 その他製品	4.3%	9 日本電産	電気機器	2.6%
10 銀行業	3.9%	10 東京エレクトロン	電気機器	2.4%

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの

### ■年間収益率の推移



- ・収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- ・2017年は年初から10月31日までの収益率を表示
- ・ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

## 【投資リスク】

## ■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

## 代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	TOPIX(配当込み)	TOPIX(配当込み)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数(TOPIX)に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX(配当込み)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX(配当込み)の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX(配当込み)の算出もしくは公表の停止またはTOPIX(配当込み)の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPIとは、野村証券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(国債)はそのサブインデックスです。わが国の国債で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI(国債)は野村証券株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村証券株式会社は一切関係ありません。
先進国債	シティ世界国債インデックス(除く日本)	シティ世界国債インデックス(除く日本)は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

## 2【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第9計算期間	401,249,874	1,552,741,091	5,797,946,487
第10計算期間	593,753,406	540,454,426	5,851,245,467
第11計算期間	192,565,060	677,471,354	5,366,339,173
第12計算期間	174,786,803	730,196,471	4,810,929,505
第13計算期間	141,188,465	616,127,505	4,335,990,465
第14計算期間	187,218,947	1,121,547,525	3,401,661,887
第15計算期間	1,407,300,615	1,601,910,798	3,207,051,704
第16計算期間	435,817,435	1,439,393,127	2,203,476,012
第17計算期間	599,353,677	468,590,036	2,334,239,653
第18計算期間	123,058,867	724,347,203	1,732,951,317
第19計算期期首から 平成29年10月31日までの期間	105,554,613	404,113,952	1,434,391,978

### 3【ファンドの経理状況】

#### 【中間財務諸表】

- 1 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。  
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 2 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間(平成29年4月21日から平成29年10月20日まで)の中間財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により中間監査を受けております。

【三菱UFJ 日本成長株オープン】  
(1)【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第18期 [平成29年4月20日現在]	第19期中間計算期間末 [平成29年10月20日現在]
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	101,353,259	42,041,367
株式	2,218,329,850	2,413,306,710
未収入金	42,117,337	55,775,855
未収配当金	18,070,638	9,630,300
流動資産合計	2,379,871,084	2,520,754,232
資産合計	2,379,871,084	2,520,754,232
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	47,365,579	48,201,412
未払収益分配金	51,988,539	-
未払解約金	1,232,764	7,765,551
未払受託者報酬	1,110,836	1,028,193
未払委託者報酬	20,411,471	18,893,036
未払利息	145	63
流動負債合計	122,109,334	75,888,255
負債合計	122,109,334	75,888,255
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,732,951,317	1,473,197,603
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金( )	524,810,433	971,668,374
(分配準備積立金)	226,645,063	182,239,717
元本等合計	2,257,761,750	2,444,865,977
純資産合計	2,257,761,750	2,444,865,977
負債純資産合計	2,379,871,084	2,520,754,232

## ( 2 ) 【中間損益及び剰余金計算書】

( 単位：円 )

	第18期中間計算期間 自 平成28年 4月21日 至 平成28年10月20日	第19期中間計算期間 自 平成29年 4月21日 至 平成29年10月20日
<b>営業収益</b>		
受取配当金	18,846,275	15,617,834
受取利息	190	194
有価証券売買等損益	23,134,837	582,000,767
その他収益	748	354
営業収益合計	41,982,050	597,619,149
<b>営業費用</b>		
支払利息	10,522	11,351
受託者報酬	1,204,068	1,028,193
委託者報酬	22,124,644	18,893,036
営業費用合計	23,339,234	19,932,580
営業利益又は営業損失 ( )	18,642,816	577,686,569
経常利益又は経常損失 ( )	18,642,816	577,686,569
中間純利益又は中間純損失 ( )	18,642,816	577,686,569
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額 ( )	8,024,840	65,846,427
期首剰余金又は期首欠損金 ( )	628,843,485	524,810,433
剰余金増加額又は欠損金減少額	10,306,707	42,797,565
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	10,306,707	42,797,565
剰余金減少額又は欠損金増加額	60,982,622	107,779,766
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	60,982,622	107,779,766
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金 ( )	604,835,226	971,668,374

## (3) 【中間注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
-------------------	---

## (中間貸借対照表に関する注記)

	第 18 期 [ 平成29年4月20日現在 ]	第 19 期中間計算期間末 [ 平成29年10月20日現在 ]
1 期首元本額	2,334,239,653円	1,732,951,317円
期中追加設定元本額	123,058,867円	94,907,160円
期中一部解約元本額	724,347,203円	354,660,874円
2 受益権の総数	1,732,951,317口	1,473,197,603口
3 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.3028円 (13,028円)	1.6596円 (16,596円)

## (中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の時価等に関する事項

区 分	第 18 期 [ 平成29年4月20日現在 ]	第 19 期中間計算期間末 [ 平成29年10月20日現在 ]
1 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同 左
2 時価の算定方法	<p>売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p> <p>デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>上記以外の金融商品(コールローン等)は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>同 左</p> <p>同 左</p> <p>同 左</p>
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同 左

## (有価証券に関する注記)

該当事項はありません。

## (デリバティブ取引に関する注記)

## 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## 【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

平成29年10月31日現在

(単位:円)

資産総額	2,569,438,309
負債総額	109,634,552
純資産総額( - )	2,459,803,757
発行済口数	1,434,391,978 口
1口当たり純資産価額( / )	1.7149 ( 1万口当たり 17,149 )

#### 4【委託会社等の概況】

##### (1)【資本金の額】

半期代替書面における「委託会社等の概況」の記載のとおりです。

半期代替書面については、(<https://www.am.mufg.jp/corp/profile/accounting.html>)でもご覧いただけます。

##### (2)【事業の内容及び営業の状況】

半期代替書面における「事業の内容及び営業の概況」の記載のとおりです。

##### (3)【その他】

該当事項はありません。

#### 5【委託会社等の経理状況】

半期代替書面における「委託会社等の経理状況」の「冒頭書面」の記載のとおりです。

##### (1)【貸借対照表】

半期代替書面における「委託会社等の経理状況」の(1)「貸借対照表」の記載のとおりです。

##### (2)【損益計算書】

半期代替書面における「委託会社等の経理状況」の(2)「損益計算書」の記載のとおりです。

##### (3)【株主資本等変動計算書】

半期代替書面における「委託会社等の経理状況」の(3)「株主資本等変動計算書」の記載のとおりです。

## 6【その他】

平成29年7月19日提出済みの有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の記載事項の一部について、内容の更新等を行います。原届出書の更新後の内容を記載する場合は＜更新後＞とします。

## 証券情報

（４）発行（売出）価格

＜更新後＞

（略）

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

（略）

## 有価証券報告書

## 第一部 ファンド情報

## 第1 ファンドの状況

1 ファンドの性格

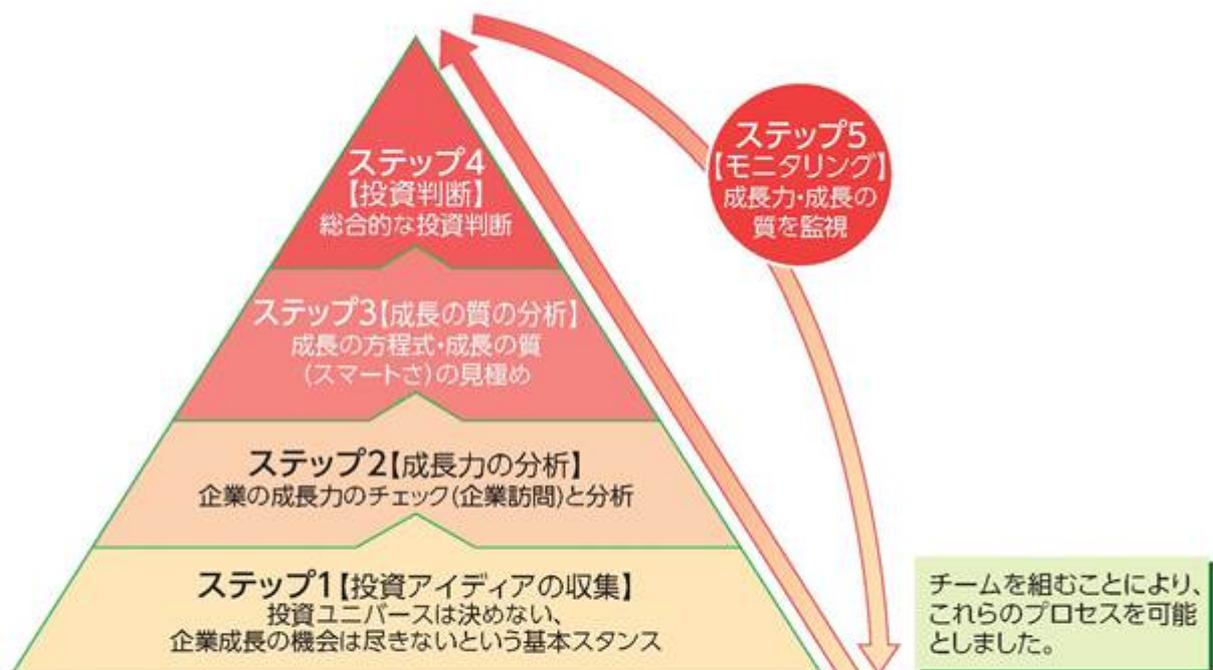
（１）ファンドの目的及び基本的性格

[ファンドの目的・特色]

＜更新後＞

（略）

## ＜投資プロセス＞



❗ 上記は銘柄選定の視点を示したものであり、実際にファンドで投資する銘柄が常に上記の条件を満たすわけではありません。また、こうした企業が必ず利益成長を達成し、株価が上昇するわけではなく、環境によっては業績が悪化し、株価が下落することがある点にご留意ください。

📄 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>)でご覧いただけます。

（略）

（３）ファンドの仕組み

委託会社の概況

＜更新後＞

・資本金

2,000百万円（平成29年10月末現在）

（略）

・大株主の状況（平成29年10月末現在）

(略)

## 4 手数料等及び税金

## (5) 課税上の取扱い

&lt;更新後&gt;

(略)

上記は平成29年10月末現在のもので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

(略)

**第2 管理及び運営**

&lt;更新後&gt;

## 1 申込(販売)手続等

(略)

申込単位・ 申込価額の 照会方法	(略) ホームページアドレス <a href="https://www.am.mufg.jp/">https://www.am.mufg.jp/</a>
------------------------	---

(略)

## 2 換金(解約)手続等

(略)

解約価額の 照会方法	(略) ホームページアドレス <a href="https://www.am.mufg.jp/">https://www.am.mufg.jp/</a>
---------------	---

(略)

## 3 資産管理等の概要

## (1) 資産の評価

(略)

基準価額の 照会方法	(略) ホームページアドレス <a href="https://www.am.mufg.jp/">https://www.am.mufg.jp/</a>
---------------	---

(略)

## (5) その他

(略)

公告	(略) <a href="https://www.am.mufg.jp/">https://www.am.mufg.jp/</a> (略)
----	---

**第二部 委託会社等の情報****第2 その他の関係法人の概況**

## 1 名称、資本金の額及び事業の内容

## (1) 受託会社

&lt;更新後&gt;

(略)

資本金の額：324,279百万円(平成29年3月末現在)

(略)

## (2) 販売会社

&lt;更新後&gt;

名称	資本金の額 (平成29年3月末現在)	事業の内容
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,711,958 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社南都銀行	29,249 百万円	銀行業務を営んでいます。
カブドットコム証券株式会社	7,196 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	48,323 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
高木証券株式会社	11,069 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
楽天証券株式会社	7,495 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
丸三証券株式会社	10,000 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	40,500 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

## 3 資本関係

&lt;更新後&gt;

委託会社と関係法人の主な資本関係は次の通りです。(平成29年10月末現在)

(略)

独立監査人の中間監査報告書

平成29年11月22日

三菱UFJ国際投信株式会社  
取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大畑 茂 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 和田 渉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJ日本成長株オープン（平成29年4月21日から平成29年10月20日まで）の中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

**中間財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**中間監査意見**

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJ日本成長株オープン（平成29年10月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成29年4月21日から平成29年10月20日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

**利害関係**

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）上記は、委託会社が、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは中間監査の対象に含まれていません。